

# 新春スペシャル

# 医療落語

熊さん、縫うほどじやねえ!

発音井亭 長大

現在の医療環境は以前とはだいぶ様変わりして  
おりまして、やたらと横文字が目につきますな。イ  
ンフォームドコンセントなんていうのがありませ  
んが、初め聞いたときはコンセントというので電気屋  
の話かと思ったら違うんですね。患者さんに病気や  
治療の事を、納得できるまで説明することなんです  
な、これが。

セカンドオピニオンというのは、診断、治療方針に  
ついて別の医師に意見を聞くことなのですが、一人  
の医師では信用できないのかといいたくありません  
もつとも、医療事故の記事が新聞紙面を飾らない日  
がない現状を鑑みれば、致し方ないのかも知れませ  
んが。以前日本国民を一億総白痴化と称した時代もあ  
りましたが、今は一億総被害者面した加害者とも言い  
ましようか、モラルの地盤沈下を何とかしないといけ  
ませんな。そのためにもつと「落語」を聞いて貰い  
たいですね。

落語には滑稽のなかに世態の描写、人情の機微、人  
生の哀歓があり、人間性の本質を眺めることが出来、  
今より暮らしやすい世の中が来るような気がしま  
す。

落語に登場する医者はいよいよ加減な連中ばか  
りのようで。手遅れ医者などと言うのがありますが、患  
者を診ると何でも手遅れだと言う医者、そういつてお  
けば治らなくてもとどしとどし治れば儲けもの。

「先生、大変だ、こいつが屋根からおちた。診てやっ  
ておくんさい」

「ああ、これは手遅れだな」

「へえ？おつこつてすぐに連れてきたんだがねえ、そ  
れでも手遅れかい？」

「ああ、手遅れだとも。屋根から落ちる前に連れて  
来なくちやいけない」なんて具合で。

かと思えば、葛根湯医者というのもしあって、ど  
んな患者が来ても、薬と言えれば必ず葛根湯を処方  
して飲ませる医者。

「先生、お腹が痛いんですが」

「ああ、それは腹痛だ。葛根湯が効くからおのみ」

「あたしは足が痛いんですが」  
「ああ、それは足痛だ、葛根湯をおのみ」

「わたしは目が悪いんですが」

「ああ、目は人間のマナコなりといつてな、大事にせ  
なければいかん、葛根湯をあげるからおあがり、そつ  
ちのお方はどこが悪いかな？」

「あつしは、付き添いで来たんです」

「そうか、ただ待たせていても退屈だろう、葛根湯でも  
おあがり」

こんなお医者さんが実際にいたかどうかは、定か  
ではありませんが。

「こんにちは、大家さんいるかい」

「熊さん、どうしたい、まあずずつと奥へおあがりよ」  
「ずずつと奥へといつたつて九尺二間の棟割り長屋、  
すぐに裏へと抜けるのでありんす」

「おいおい、なんでまた急に花魁口調になるかね、そ  
れはそうとんだい用は」  
「いやねえ、うちのお花のことで話があるんですがね  
え」

「なに熊さんの娘のお花ぼうのことで、お花ぼうも子  
供だ子供だと思つていたらいい女になつたねえ。私が  
もう三十も若かつたらほつとかないね」

「このすけべ大家、お花にちよつつかい出したらただじ  
やおかねえぞ」

「冗談だよ、それで話つて言うのは？」

「いやね、お花が臨床検査技師になりたいつて言い出  
したんでえ、それでねえあつし怒つちやつた。お父つ  
あんはおまえをそんな訳の分からないやくざな人間に  
させるために、育てたんじやありません。そしたらお  
花、お父つあんは学がないから何もわかつてない。臨  
床検査技師というのとはとても大事な仕事なのよつて泣  
き出して。それで大家さんならそのなんとか技師とい  
うやつを正体を知つてるかと思つてね、うううう  
つ」

「おいおい熊さんが泣いてどうするね、私が教えてし  
んげよう」

「そうですか、大家さん知つてますかい」

「臨床検査技師とはつまりなんというか、臨床を  
検査する技師ということだ」

「なんだ大家さんも本当は知らないようですね」  
「熊さんこうしよう、私も知らないこともないんだが  
不確かな事は言えないので、隣の町のお医者様に紹介状  
を書くからそれをもつてお行きなさい」

「熊さん」

「大家さんに書いてもらった紹介状の宛名には『北内  
医院』であるねえ、キタナイイインでふつてあるけど  
変な名前だねどうでもいいけど、何か清潔感がない名  
前だね。でもなあ前もどつたかで見つけたなあ、『穴見産  
婦人科』なんて言うのもあつたなあ、産婦人科でアナ  
ミというのどうかなあ、まあどつちも似たりよつた  
りか』などとくだらないことを言つてうちに病院の  
前にまいりました。

「ナンダイこれが病院かい、どうでもいいけど汚いね  
え、病院の名前も見えないよ。あつ、こんな所に看板  
が落ちてるよ、換かぶつて、あつ、確かに『北内医院』  
てかろうじて読めるよ。大丈夫かねえこんな所で……  
ごめんください」

「何だ、押し売りはお断りだぞ、リフォームの勧誘も  
いらんぞ、この前も屋根の葺き替えいかがですか、こ  
の地区限定の割引サービス月間です。なんていう口車  
にのせられてえらい目にあつたばかりだ。終わつてみ  
れば法外な金払わされ、屋根も雨漏りする始末だ。お  
まえもその連中の仲間だな、金返せ」

「くつ苦しいい、いきなりむなぐらつかむのはやめて  
くださいよ。あつしは関係ありませんよ」

「そうか、取り乱してすまん。それで何の用だ、患者  
か、どこが悪い」

「いやあ病人じやないんで、あつしは隣の熊五郎と  
いいやして、大家の源平に先生に紹介状を書いて貰い  
伺つた訳で」

「おおう源平さんにわかりました。拝見しましょう。  
なるほど、臨床検査技師について聞きたいということ  
ですな、オオケーオオケーアイアンダスタンド」

「何でそこだけ英語なの。それで先生この何とか技師  
てご存知で」

「ご存知、ご存知、浅草寺。わしも医者のはしくれ。  
分かり易くご説明いたしましょう」

次号へ続くよ……